

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(1月29日～2月4日)

2024年2月9日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●下院・地方議会統一選挙の候補者数の発表(1月31日)

●キジム元駐ベラルーシ・ウクライナ大使のベラルーシ民主勢力担当特使への任命(2月3日)

【外交】

●ポーランドは、「ポーランド人カード」を所有するベラルーシ人に対する査証発給手続きを変更

・これまでは「ポーランド人カード」所有者には、一般の観光査証申請者の査証とは別の番号が割り振られていたが、今次変更により、番号が一本化される。

・今次変更により、当局が「ポーランド人カード」の所有者を把握することが難しくなる。今次変更は、「ポーランド人カード」の所有者に対する措置が厳しくなっていることを踏まえて導入された。

(1月30日「ベラルーシ連帯センター」)

●リトアニア政府は、シェンゲン査証で入国するベラルーシ人の入国審査を強化

・ベラルーシ国民がシェンゲン査証でリトアニアに入国する場合、その入国が社会の治安、国内の安全保障、国民の健康と国際関係にもたらす脅威についてさらなる審査が行われる予定。

(1月31日「ゼルカロ(鏡)」)

●イランは、2月4日以降、ベラルーシを含む28か国に対し査証免除

(1月31日 イラン「IRNA」、「ゼルカロ(鏡)」)

●外務省は、赤十字国際委員会(ICRC)との年間活動計画に署名

・同計画では、ベラルーシの国家機関や組織とICRCの専門家との間で、移民に関する活動分野での経験の交換、国際人道法の実施、緊急事態への備えと対応におけるベラルーシの国家機関や組織の可能性の支援に関するプロジェクトが想定されている。

(1月31日 外務省)

【内政】

●下院・地方議会統一選挙の候補者数の発表

・カルペンコ中央選挙管理委員会委員長は、下院議員定数110人に対し、265人の立候補があり、地方議会議員は12,514議席に対し、18,802人の立候補があったと発言。

・下院・地方議会統一選挙日は、2月25日に予定されている。

(1月31日 国営ベルタ通信)

●国外へ出国した人々の親族に対する捜査の実施

・治安関係者が出国した人々の親族を訪問し、ベラルーシに戻るよう説得させようとする例が少なくとも3件報告されている。

(1月31日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

●2月2日現在の政治犯の数は1,414人

・1月には、少なくとも35人の政治犯が釈放された。

(2月1日、2日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●フレニン国防大臣と、アルバロ・ロペス・ミエラ革命軍事大臣の会談(於:キューバ)

・二国間協力に関する諸文書に署名。

・両大臣は国際情勢について意見交換し、軍事分野における二国間協力の展望について詳しく協議。また、国際舞台における両国の立場の類似性、歴史的な強い絆、現在の重要な問題を評価するための共通のアプローチについても言及。

(1月30日 国営ベルタ通信)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(1) 1月29日～2月4日の状況

- ・リトアニア国境では不法越境の試みは確認されず。
- ・ラトビア国境では不法越境の試みは確認されず。
- ・ポーランド国境警備隊は少なくとも17人を阻止。

(2) 1月27日から2月3日の8日間にわたって、不法越境の試みは確認されなかった。

(1月30日～2月5日 Pozirk)

【治安・犯罪】

●捜査委員会は、2022年の国民投票で「投票を妨害する試み」によって7人が有罪判決を受けたと発表

(1月31日 捜査委員会)

【経済】

●ベラルーシ産業省とジンバブエ産業・通商省間の協力に関する覚書への署名

- ・同文書では、両国が国際的な専門化と生産協力を発展させ、産業部門における優先事項を定め、共同事業の開発と実施を促進するための措置を実施することを定めている。

(1月31日 産業省)

●2023年の自動車の販売及び輸入に関する統計

(1) 販売に関して

- ・2023年の乗用車及び商用車の販売台数は25,408台であった(前年比47.5%)。

(2) 輸入に関して

- ・ヴァリヴォダ・ベラルーシ自動車協会(BAA)会長は、2023年にベラルーシに輸入された新車及び中古車は10万台以上と予測
- ・同氏によれば、輸入された自動車の大半はロシアから輸入されたもの。

(1月30日 ベラルーシ自動車協会、Pozirk)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表のストラスブール訪問

- ・欧州評議会閣僚委員会に出席し、演説。民主化後のベラルーシの欧州評議会への加盟は、欧州統合に向けた第一歩となるだろうと述べた。

(1月30日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

●キジム元駐ベラルーシ・ウクライナ大使のベラルーシ民主勢力担当特使への任命

- ・2月2日、キジム元駐ベラルーシ・ウクライナ大使は自身のFacebookにて、ベラルーシに関する特命大使に任命された旨発表。同大使は自身の職務に、ベラルーシの現在の政治指導部やロシアによる対ウクライナ侵略に反対するベラルーシの市民社会の一部としての民主勢力に関連する問題も含まれる旨付言。

- ・同日、チハノフスカヤ民主勢力代表と「統一移行内閣」はそれぞれ「X」を通じ、キジム氏の特使への任命を歓迎。ベラルーシ・ウクライナ両国民の協調への期待を表明。

(2月3日 Pozirk)

●国外のベラルーシ人活動家らに対する調査

- ・団体「インシヤ」は、2023年9月、63人を対象にオンライン調査を実施。さらに、10月にはジョージア、リトアニア、ポーランド在住のベラルーシ人女性への聞き取り調査を実施。

- ・調査結果は以下のとおり。

(1) 精神状態について

エネルギーが足りていないと感じる 78%

非常に疲れていると感じる 58%

ストレスが強いと感じる 36%

(2) 社会生活における困難

安全性を感じない 43%

適応するのが困難 41%

医療を受けるのが難しい 41%

合法的な滞在 41%

言語の壁 40%

(3) 心理状態の改善をもたらす要因

定期的な身体活動 56%

利用可能な心理的支援 51%

親しい人とのコミュニケーション 46%

(2月2日 「インシヤ」、Pozirk)

【その他】

●ベラルーシの腐敗認識指数は180か国中98位(前

年は 91 位)

(1 月 30 日 Transparency International)

【統計等】

●2023 年にトルコに渡航したベラルーシ人は 30 万
9,216 人(前年比 29%増)

(1 月 31 日 「ゼルカロ(鏡)」)

●2023 年に「ルカシェンコ大統領を侮辱した罪」で
1,263 件が起訴

(2 月 2 日 BelPol、Pozirk)

(了)